



おかげさまで、2回にわたる結成25周年記念コンサートは、たくさんの方の方においで頂きました。ありがとうございます。これをひとつの区切りとしてこれからもモルゴア流『弦楽四重奏道』を究めていきたいと、決意も新たにしております。

今回の定期演奏会はアメリカの作曲家による作品が2曲あります。思えばモルゴアはこれまでに北米の作曲家をあまり取り上げてはきませんでした。2005年から2007年にかけて、モートン・フェルドマン、ピーター・シックリー、エリオット・カーター、そしてチャールズ・アイヴスを演奏したに過ぎません。

チャールズ・ウオリネンはその作品の音の情報量が多くかつ抽象的なのですが、アクティヴでヴィヴィッドな音楽世界が特徴です。この『ジョスカニアーナ』はルネッサンス期のフランスの巨人、ジョスカン・デ・プレの作品に手を加えたものです。言ってみれば500年あまりの時を超えた再創造リメイクです。ウオリネンはバロックやルネッサンスの音楽への傾倒が強く、初期からいくつかの作品で同様な試みを行っています。彼の鋭利な感性により、古い音楽を鮮やかな色彩感覚で再現するその斬新な手腕で、私たちの脳髓は刺激されること、請け合いです。

ジョージ・ロックバークはウオリネンとは傾向を異にします。新ロマン主義と言ってもいいかと思えます。そして無調と調性の両方の言語を対立させたり補完し合うことによ

り、ひとつの複合体としての世界の有り様を示してくれます。これはレーガーやマーラーの調性感の危うい均衡でもなければ、シュニトケにみられるような多様主義とも無縁です。ロックバークのこの作曲法は1960年代から70年代に顕著なのですが、その代表作は間違いなくこの第3番の四重奏曲でしょう。ベートーヴェンから20世紀の前衛音楽に至るまでの西洋音楽のさ

まざまなスタイルが、タイムマシンに乗って訪ねていくが如く回顧されます。とにかく、こんな痛快な現代音楽は他にあるか!? 的な傑作です。私(荒井)がこの曲を知り、あまりの面白さに仰天し、いつの日にか演奏してみたいという30年に亘る積年の思いが、こうして叶えられる喜びは他には替えられません。全曲演奏に5分になんなんとする大作ですが、聴き終えた瞬間、また最初から聴きたくなるような魔法に満ちた時間が待ち受けています!

しかも、(これはあとで知ったのですが)今年112018年はウオリネン生誕80年、ロックバークは生誕100年にあたるのです! ……である以上、極東の地において彼らを盛大に祝わないなんて手はありません!!

荒井英治



Photo © Norikatsu Aida

第1ヴァイオリン
荒井英治(あらい えいじ)
東京音楽大学教授

ヴァイオラ
小野富士(おの ひさし)
NHK交響楽団ヴァイオラ奏者

第2ヴァイオリン
戸澤哲夫(とさわ てつお)
東京シティアールハーモニック管弦楽団
コンサートマスター

チェロ
藤森亮(ふじもり りょういち)
NHK交響楽団首席チェロ奏者

常者たち《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。シヨスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「シヨスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で演奏。瞠目のプログラムで多くの聴

MORGAUA QUARTET (モルゴア・クアルテット) はシヨスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。2001年1月の第14回定期演奏会でシヨスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に

交代。'01年11月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で《モルゴア・クアルテット シヨスタコーヴィチ・シリーズ》を5回に亘って行ない、'03年12月に2度目の完奏。'03年6月の第19回定期演奏会でベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲を完奏。'05年4月、マイスター・ミュージックから《ボロディン：弦楽四重奏曲集》を発売。'06年6月第25回定期演奏会でバルトークの弦楽四重奏曲全6曲を完奏。同'06年9月には「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催でシヨスタコーヴィチ生誕100周年記念弦楽四重奏曲全曲演奏会を行ない、3日間で全15曲を3度目の完奏。'08年11月、東京フィルハーモニー交響楽団 第761回サントリー定期シリーズにマルティヌー作曲「弦楽四重奏と管弦楽のための協奏曲」のソリストとして招聘され、弦楽四重奏団としての高いクオリティを評価された。'09年1月の第30回定期演奏会でベートーヴェン中期弦楽四重奏曲を完奏。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正

衆を集め、4度目の完奏。結成25周年記念コンサートを'17年6月に福島と東京(vol.1)で、'18年1月にvol.2を東京で開催。1998年1月第10回「村松賞」、2011年5月「2010年度アリオン賞」、2016年9月「第14回佐川吉男音楽賞 奨励賞」、2017年9月「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」を受賞。モルゴア・クアルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。「モルゴア」はエスペラント語(morgaŭa=明日の)に原意を持つ。

